

ツツジコナカイガラムシ

ツツジやシャクナゲの枝や葉につく。最大長約3mm。ワラジムシ形で白粉に覆われる。夏に葉裏に白い粉状のかたまり（卵塊）がみられる。

庭木などで多発することがある。すす病を併発するので、木が黒く汚れる。樹勢が衰える場合もあるとされている。

【学名】 *Phenacoccus azaleae*

【分類】 カメムシ目（Hemiptera）, コナカイガラムシ科（Pseudococcidae）

【特徴】

ツツジにつくよく似た種にマツモトコナカイガラムシがある。この種は卵塊を作らない。

【生態】

幼虫が2mmほどのときに枝で越冬する。春に若枝に移動し吸汁加害する。成虫は葉裏に白い綿状の卵の塊を産む。

【防除】

みつけたら歯ブラシなどでつぶしてこすり落とす。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ツツジコナカイガラムシ kaigara/tutujiko/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/16.